ＩＣＴ施工を重ね「未来の現場」の実現へ。

生産性向上
より確かな「手応え」へ

「うちの会社は、情報化施工に対して関心が高いんです」と（株）砂子組の現場代理人　野崎了さんは話した。（株）砂子組様では、平成２８年４月にＩＣＴ施工推進室が設置された。情報化施工を積極的に導入し、日々研究を続けているそうだ。 そんな中、平成２７年１月にスマートコンストラクションが発表され、北海道で初めてスマートコンストラクションを導入した。初の現場は、千歳市から小樽市までをつなぐ延長８０kmの道央圏連絡道路の路体盛土工事。今回も同様の道路工事を受注したので導入を決めたそうだ。 砂子組様はすでに１０件以上の現場でＩＣＴ建機を使用しているパイオニア。監理技術者　廣上伸二さんに話を聞いた「ＩＣＴ建機によって、現場が変わり、無駄な作業が減り、効率よく施工が出来ています。使い続けることで、現場の生産性により確かな手応えを感じる」と話した。

現場代理人 野崎了さん

監理技術者 廣上伸二さん

北海道
（株）砂子組様

創業からの精神、常に全力を注ぎ、知恵と汗をかきながら地域（人）と共に歩み続けていく。この思いを大切にしている

全道エリアの土木、建設工事を主体に、石炭事業も手掛ける札幌・空知の建設総合会社。平成２１年から情報化施工に積極的に取り組んでおり、自然な流れでスマートコンストラクションを導入した。

掲載月:2016年7月

スマートコンストラクションで
未来の現場

２０１６年度、国土交通省より建設業界の生産性を向上させる政策「i-Construction」 ～ＩＣＴ建機の全体的な活用～が発表された。今回の現場は、「i-Construction型」工事の全国第１号と認定された。監理技術者　廣上伸二さんに話を聞いた「昨年まではＩＣＴ建機に力を入れていても、周りからの関心は低かったが、i-Constructionが発表されてからＩＣＴ建機への関心が一気に高まったよ」という。 今回導入したＩＣＴブルドーザD37PXiの感想を聞くと「１年前よりも進化しているね。モニターで土が足らない場所が一目でわかり、スムーズに施工が進んだ。これは素晴らしい」「盛土工事はＩＣＴ建機の登場で進化したんだよ」とも教えてくれた。 最後に未来の現場像も話してくれた「建設業界はかっこ良く・きれいで・安全な業界になってほしい、この現場が業界改革の後押しに少しでも寄与できたらいいな」と語った